社会科（地理的分野）学習指導案

日　時　令和８年１月 26 日（月）
第５校時　13:35～14:25
学校名
対　象　第　２　学　年　　組　　名
会　場　３　階　２　年　　組　教　室
授業者

１　単元名

日本の諸地域　関東地方

２　単元の目標

・　関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。
・　人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。
・　関東地方において、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
・　関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ②　人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	①　関東地方において、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①　関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

４　指導観

(1)　単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第２章 第２節 社会 第２ 各分野の目標及び内容 地理的分野

２　内容

C　日本の様々な地域

(3) 日本の諸地域

次の①から⑤までの考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

①　自然環境を中核とした考察の仕方

②　人口や都市・村落を中核とした考察の仕方

③　産業を中核とした考察の仕方

④　交通や通信を中核とした考察の仕方

⑤　その他の事象を中核とした考察の仕方

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ)　幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。

(ｲ)　①から⑤までの考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ)　日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

を受けて設定した。

この中項目は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。

本単元では、日本の諸地域を７地方区分に分けた際の関東地方を、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で地域的特色や課題を理解できるよう、単元を貫く課題を「関東地方の人口集中は、生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか」と設定した。関東地方は、広大な関東平野に国内総人口の約３分の１が集中し、政治や経済、文化の中心となる東京大都市圏を発達させている。また、交通・通信の発達により、他の地域や国外との結びつきが強いという地域的特色がみられる。一方で、都市部では過度な人口集中による都市問題が深刻化しており、人々の生活への影響や災害時の対応などが地域の課題である。

以上を踏まえて、関東地方に人口が集中する理由や、人口集中による人々の生活や産業、交通・通信への影響を、地図や資料を基に理解し、関東地方の地域的特色や地域の課題を多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。単元のまとめでは、関東地方の未来の姿を予測する学習活動を行い、よりよい関東地方の未来の姿を、生徒が主体的に追究できるようにする。また、日本の諸地域の単元構成について、年間指導計画における位置付けの中で、各地方の学習を教科書の配列とは異なる指導順とした。生徒にとって身近な地域である関東地方を最後に学習することで、既習の学習成果を生かせるようにするとともに、次の単元である地域の在り方の学習につなげる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、第２学年第２学期までに関東地方以外の日本の諸地域を既習しており、本単元

は日本の諸地域の最後の学習に位置付く単元である。事前に実施した授業アンケート(令和７年 11 月実施、28 名回答)では、「他の地域と比べて、関東地方はどのような地域であると予想するか。(複数回答可)」という質問に対し、「人口密度が高い（25 名、89%)」、「世界や日本から多くの人が集まる（21 名、75%)」、「商業・サービス業がさかんである（12 名、42%)」などの回答が多く、人口が集中しており、大都市圏が形成されていることを多くの生徒が理解している。さらに、「人口が多いことによるメリットやデメリットは何か」という質問に対し、「観光業や商業がさかんになる」、「ごみ問題や住民への影響がある」、「交通渋滞や住宅不足」など、これまでの学習を踏まえて回答する生徒が多数であった。「関東地方の学習で学びたいことは何か」に対する回答には、「どうして人口が集中するのか」などの人口集中の要因を指摘する内容が最も多く、「東京都と他の県との関係性」、「人口が多いことの課題」など、地域どうしの結びつきや、地域の課題について学びたいという生徒も複数いた。また、「授業では、どのような学習が理解を深めるか（複数回答可)」という質問に対し、「クラスの仲間やグループでの学習（20 名、71%)」が最も多く、その理由として、「一人一人考えていることが違うので、他の気付きが毎回あった。」、「自分と違う意見を知り、質問などができて、より意見を深められたから。」などが挙げられた。

以上のことから、本学級の生徒は関東地方の人口集中による人々の生活や産業、都市問題などの影響について、既習事項を基に予測が立てられており、人口集中の要因や、地域の課題について関心が高いといえる。さらに、グループ学習を通して学習の理解が深まった経験から、他者と協働して学ぶ活動に意欲的な生徒が多い。そこで本単元では、人口の集中によってもたらされる影響について、グループで調べ、発表する活動を行う。生徒が空間的相互依存作用に着目しながら、地域の特色や課題を多面的・多角的に理解し、よりよい関東地方の姿を追究する学習者の育成を図っていく。

(3) 教材観

単元観や生徒観を踏まえて、生徒が自ら考え、他者と協働して単元を貫く学習課題を解決できるよう、ワークシート、授業支援クラウドを使った授業を展開する。ワークシートには、思考ツールや発問の内容、二次元コードなどを載せ、生徒自身で事象の関連を整理し、学習を進める上で必要な資料をすぐに確認できるようにする。また、調べた結果を授業支援クラウドで公開できるようにし、学習課題の解決に必要な知識を他者から得たり、多様な意見を即時に共有したりして、個人の学びを広げ、深めていけるようにする。

地域の特色や課題を調べる際には、教科書や地図帳の景観写真やグラフ、分布図などから情報を読み取ることを基本とする。生徒はグループで学習する際に、どの資料から読み取れたことなのか、どのような点に着目した結果なのかなどを生徒が持っている共通の資料から読み取ることで、話し合う活動で共通理解が容易となり、課題解決を円滑に進められるようになる。授業者は、生徒の考えを予測しやすくなるため、生徒の学習状況に応じて必要な補助発問を加え、どの生徒にとっても学習内容が理解できるような工夫につながる。

毎時のまとめでは、単元学習シートを用いる。毎時間の目標や振り返りを生徒が記録できるようにし、学習の見通しや学びの過程、考えの変容などが見取れるようにする。授業者も生徒の学習状況を把握することができるため、生徒の実態に合わせた指導の改善につなげていく。

５　年間指導計画における位置付け

	単元名	時数
第１学期	日本の地域的特色	10 時間
	日本の諸地域　九州地方	４時間
	日本の諸地域　北海道地方	５時間
第２学期	日本の諸地域　中部地方	８時間
	日本の諸地域　近畿地方	６時間
	日本の諸地域　中国・四国地方	４時間
	日本の諸地域　東北地方	５時間
第３学期	日本の諸地域　関東地方　（本単元）	８時間
	地域の在り方	５時間

６　単元の指導計画と評価計画（全８時間）

単元を貫く学習課題

「関東地方の人口集中は、生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」

	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第１時	学習課題「関東地方の自然環境にはどのような特色があるのだろうか。」		
	関東地方の自然環境について調べ、関東地方の自然環境の特色を理解する。	関東地方の自然環境について、地図帳を活用し、関東地方の代表的な自然環境について調べ、ワークシートの白地図にまとめる。	アー①（ワークシート）
第２時	学習課題「なぜ関東地方には多くの人々が集まるのだろうか。」		
	関東地方に人口が集中する理由を、自然環境や首都機能などに着目して多面的・多角的に理解する。	東京大都市圏の拡大について、地図帳や教科書の資料を読み取り、首都である東京や東京大都市圏の拡大の様子を調べ、ワークシートにまとめる。	アー②（ワークシート）
第３時	学習課題「関東地方の人口集中は、生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」		
	人口集中がもたらす人々の生活や産業への影響について、諸資料に基づいて調べ、個人でまとめる。	関東地方の人口集中の影響について、人口集中がもたらす影響について、９つのテーマを設定し、グループが担当するテーマを決定し、担当するテーマについて	イー①（観察、ワークシート）

		個人で調べ、ワークシートにまとめる。	
第４時	学習課題「関東地方の人口集中は、生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」		
	人口集中がもたらす人々の生活や産業への影響について個人で調べた内容をグループで共有し、発表の準備を行う。	関東地方の人口集中の影響について、前時で調べた内容を基に、グループで共有し、各グループでワークシートや授業支援クラウドの資料などにまとめる。	イ－①(観察、ワークシート)
第５時	学習課題「関東地方の人口集中は、生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」		
	人口集中がもたらす人々の生活や産業への影響について、各グループで調べたことを発表する。(前半)	関東地方の人口集中の影響について、前時までに調べ、まとめた人口集中がもたらす影響について、前半のグループが発表し、質疑応答を行う。	イ－①(観察、ワークシート)
第６時 (本時)	学習課題「関東地方の人口集中は、生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」		
	人口集中がもたらす人々の生活や産業への影響について、各グループで調べたことを発表する。(後半)	関東地方の人口集中の影響について、第４時までに調べ、まとめた人口集中がもたらす影響について、後半のグループが発表し、質疑応答を行う。	イ－①(観察、ワークシート)
第７時	学習課題「関東地方はこれからどのような課題を解決していくべきなのだろうか。」		
	人口の集中がもたらす影響から、関東地方の未来の姿を予測し、地域が抱える課題の解決に向けて、よりよい関東地方の姿を追究する。	関東地方の人口集中がもたらす課題の解決について、前時までの発表を振り返り、関東地方の未来の姿を予測してワークシートにまとめる。	ウ－①(観察、ワークシート)
第８時	学習課題「関東地方の学習を振り返り、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを表現しよう。」		
	これまでの学習内容を振り返り、関東地方の地域的特色や課題を基に、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを表現する。	よりよい関東地方の姿について、前時で話し合った内容を発表し、意見交換を行って、よりよい関東地方の姿について考察する。	ウ－①(観察、ワークシート、単元学習シート)

7　指導に当たって

班テーマ「協働的な学びを通して新たな気付きが得られる授業展開の工夫」の実現に向けて、次のような工夫を行う。

(1) 新たな知識を獲得したり、多様な考えが得られたりする協働的な学びの工夫

本単元では、都市圏への人口の集中が関東地方の人々の生活や産業などにもたらす影響について、

農業や工業、交通・通信などの９つのテーマを設定し、テーマをグループに振り分け、調べてまとめた内容を発表し合う学習活動を行う。その際、調べ、まとめる方法やどのような発表形態を取るかは、授業者が提示した案などから各グループで検討し、生徒自ら選択できるようにする。それぞれのグループの発表資料は、授業支援クラウドで公開できるようにし、まとめた内容を互いに発表し合うことで、新たな知識や個人では気付くことができなかった新たな考えを得て、地域的特色を捉えられるようにしていく。さらに、他のグループのまとめ方や発表方法を知ることは、多様な課題解決方法を知ることにつながる。この協働的な学びを通して、地域的特色や課題を多面的・多角的に考察していくと共に、生徒自らで学び方を調整し、自分に合った学び方を追究できるようにしていく。

(2) 空間的相互依存作用や地域などに着目して学習課題を追究する授業展開の工夫

本単元の第３時から第６時は、地図帳や教科書などの諸資料から情報を読み取り、まとめたことを発表し合う活動を行う。その際、ワークシートや授業支援クラウドにはあらかじめ学習を進める手順や資料を活用する発問、まとめに用いる語句など提示しておき、生徒が社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて学習活動を進めることができるようにする。人口集中による影響を、都市と農村、都心と郊外などの空間的なつながりに着目してまとめていくことで、相互の事象を関連付けながら地域的特色や課題を理解し、単元を貫く学習課題の解決を目指していけるようにしていく。

８　本時（全８時間中の第６時）

(1) 本時の目標

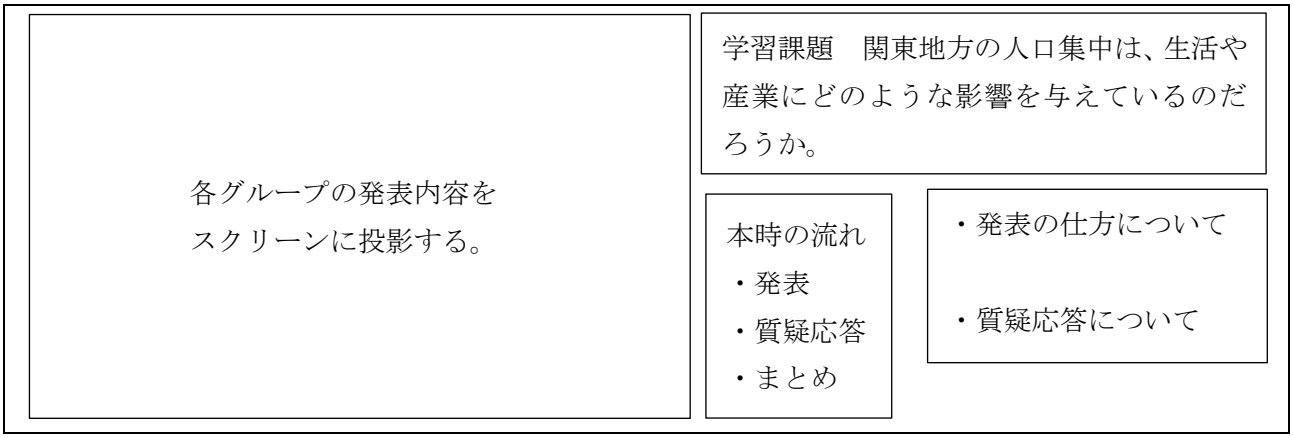
人口集中がもたらす人々の生活や産業への影響について、各グループで調べたことを発表する。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 10 分	○　前時までの振り返り ・　前時までの学習内容について、ワークシートを用いてペアで発表し合う。	・　授業支援クラウドを用いて、スクリーンに前時までの学習内容を提示し、補足する。	
	学習課題「関東地方の人口集中は、生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」		
展開 30 分	○　人口の集中による影響 ・　グループで調べ、まとめた内容について発表する。 ・　各グループの発表内容について、質疑応答を行う。	・　第４時までに各グループでまとめた内容を、授業支援クラウドに保管し、一人一台端末から閲覧できるようにしておく。 ・　発表を聞く際の視点や、質疑応答のポイントを提示しておき、社会的事象の地理的な見方・考え方に基づいて学習内容を整理できるようにする。	

	○人口の集中による影響の考察 ・　各グループの発表を基に、人口の集中による地域への影響をワークシートの表にまとめる。	・　空間的相互依存作用や地域に着目して、都市と農村や都心と郊外など、地域間の相互の関わり気付くことができるよう、補助発問を行う。	イ－①（観察、ワークシート）
まとめ 10 分	○　本時の振り返り ・　本時を振り返り、学んだことや、生徒自身の学び方について、単元シートに記入する。	・　授業支援クラウド上の単元学習シートなどに本時の振り返りを記述し、提出できるようにする。	

(3) 板書計画



(4) 授業観察の視点

ア　本時のグループ学習の成果を発表し合う活動は、生徒が新たな知識を獲得したり、多様な考えを得たりして、地域的特色や課題を多面的・多角的に理解することに効果的であったか。

イ　空間的相互依存作用や地域などに着目して学習課題を追究する授業展開は、生徒が相互の事象を関連付けながら地域的特色や課題を理解し、単元を貫く学習課題の解決を目指す手立てとして効果的であったか。

【参考文献】

・文部科学省「中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　社会科編」東洋館出版社、平成 30 年
・国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」東洋館出版社、令和 2 年